

第2回三田市認知症支え合いのまちづくり懇話会 議事録

日 時	令和3年3月23日（火） 14:00～15:30
開 催 場 所	三田市総合福祉保健センター 1F 多目的ホール
出 席 委 員	足立 正樹、舟川 格、小林 昇、山西 敏之、寺坂 梨沙、坂本 裕樹 岩崎みちよ、福田 恵美子、田辺 智子、古屋 一之、北村 吉次、入江 貢
欠 席 委 員	荻田 藍子、馬場 民生、河崎 俊文
事務局出席者	三田市役所福祉共生部 福祉共生部長 入江 正浩 三田市福祉共生部 参事 北中 耕作 三田市福祉共生部 介護保険課長 岸田 秀章 三田市福祉共生部 いきいき高齢者支援課長 喜多 有希 主任 池田 聡美 事務職員 東 晃輔
傍 聴 人	0名
使 用 資 料	【事務局資料】 ・次第 ・懇話会委員名簿 ・座席表 ・資料1 認知症に関する市民の意識調査の実施について（案） ・認知症に関する意識についてのアンケート
議 題	1 開会 2 議題 ① 認知症に関する市民の意識調査の実施について 3 その他

会議の概要

事務局	1 開会 2 議題 ① 認知症に関する市民の意識調査の実施について
事務局	資料1について説明
足立座長	確認ですがアンケートの差し替え文について、どこが違うのか。
事務局	内容としては大きくは変わりません。誤字脱字等に修正をしたものになります。
足立座長	ただ今の事務局の説明について、まずは対象者や調査の期間について質問や意見がありましたら、挙手をお願いします。

寺坂委員	認知症サポーター養成講座は高校や小学校で定期的開催が出来ているというところですが、継続的に養成講座を受講されているのは、有馬高校とけやき台小学校のみで、高校生に至っては三田市在住とは限りません。三田市内の学生で認知症サポーター養成講座を受講した方は少数であることをご理解いただけたらと思います。
足立座長	この件で事務局から何かありますか。
事務局	数年前の実績を確認し、小学校では複数校受講されていましたが、その方たちが高校生くらいにはなられていると思いますが、後で実績を一緒に確認させていただきます。趣旨としては若い方たちがボランティア活動等にどれくらい参加されているか知りたいということになります。
寺坂委員	趣旨に問題があるとは思っていませんが、数年前の複数校の参加というところですが、他の学校も参加はされていましたが、2～3校程度で三田市内の小中高の学校数で考えるとごく少数の学校に限られるのではないかと考えています。
小林委員	そもそもの話ですが、アンケート調査は必要ですか。三田市と同じくらいの人口規模の市町村が数多くネット上でもアンケート調査の結果を出しています。それを踏まえて三田市ではどこが違うかを知るために、多くの予算・時間・人と手間をかけてするのですか。ちなみに予算はどれくらいかかりますか。郵送・印刷・人件費もろもろ、それに見合っただけの他の市町村と比較して、三田市特有の状態や傾向など、どのように予測してこのアンケートを企画したのですか。
事務局	人口規模が似ていたり、確かに色々な自治体でアンケートがされていることは確認しています。それは三田市の現状ではありませんので、三田市の現状を把握するためには、三田市の状況を把握する必要があると考えています。すべてが比較できるものではありませんが、今回のアンケートで、例えば問4はH27年度の兵庫県県民モニターアンケートの項目、問10は内閣府の調査項目を参考に作っていますので、同じ項目を取ることで違いを比較できると考えています。予算規模について、人件費換算は難しいですが、2000部で数が多いことと、短期間で集計ということになり、入力・集計・結果の分析を外部委託し、50万円の予算を計上しています。アンケートは三田市の現状が知りたいのが一点と、会議の趣旨のところの説明しましたが条例制定を視野にしていること、認知症の施策を今後どのように取り組むか決めることを踏まえて、三田市民の意識を聴取する機会を取る必要があります。その手法のひとつとして、アンケートを実施します。
小林委員	三田市の人口11万人分の2000人の数値で三田市の状況が把握できるという、統計的な裏付けはありますか。

事務局	三田市の中での他のアンケートや他市での認知症のアンケートの数を色々確認し、1000~3000の間でした。回収率を勘案して今回は2000にしています。
小林委員	他市の何千何万のアンケートを集めて統計学処理をして日本人の状況としてデーターを出してもいいのではないか。それと2000部を郵送して、集計等を外部委託して50万で済みますか。
事務局	入札はこれらかですので若干変わるかも知れませんが、予算上は50万をおいています。
小林委員	条例を作ることに對して市民へのアンケートは必須項目ですか。
事務局	そうです。手法がいくつか挙げられている中で今回はアンケートを選択していますが、聞くという作業は必ず必要なことになります。
足立座長	認知症や介護関係に関してどんな問題意識を三田市民が持っておられるかを設問に入れることで、先ほどの質問に関して若干答えることができるのではないかと思います。
坂本委員	対象者が16歳以上となっていますが、逆に学生を対象にしてその実態を知りたいです。学校としても福祉やボランティアの機運が高まっています。学生達がどのように認知症を見ているか、同じ質問でいいので学校に依頼してどこかの学年やクラスを対象にアンケートを取ってもいいのではないかと考えます。教育の中に認知症を知ってもらうことは理解を深めるうえでも重要だと感じます。学生の意識、認知症の問題をどう思っているか、同じアンケートで2000人から外して学校に協力依頼してはどうか。質問内容になりますが、介護のことと地域の中で認知症に対する役割意識を質問の項目に入れてほしい。
足立座長	無作為抽出2000ではなくて、特定の分野へ別枠でアンケートを取るという提案についてはどうです。
事務局	教育の中に組み込むことへの効果はどうなっているかを確認するということがいいですか。学校と調整して学校側の了解があればできることです。認知症サポーター養成講座を学校で進めていくにあたって材料として使うことができ、また養成講座を行ったときにアンケートとして取ることも可能だと思います。会と並行して出来るようであれば並行して行い、この会の期間中に間に合うかどうか今すぐに返答はできないが、将来にわたって活用できると思いますので、そのような機会を考えていきたいです。
足立座長	無作為抽出で、地域性や年齢層・性別に偏りは出てしまうということはないか。
事務局	無作為ではありますが、年齢や地域を振り分けた中から無作為に抽出するという方法もあ

	<p>るので、皆さんのご意見を伺いたいです。年齢は作業的に大変ですが、地域性を出す為には、三田市内6圏域ごとにある程度バランスを取った中から無作為抽出すると地域の中での取り組みに反映できるので、そのような方法の方がいいのではないかとこちらでは思っていますが。みなさんのご意見がそれで良ければ、事前に地域を調整した中で無作為抽出の方法を取りたいと思っています。</p>
<p>足立座長</p>	<p>皆さん今の意見につきましてはいかががでしょうか。 完全無作為抽出は危ない気がしますので、ある一定の地域性、できれば年齢もですが年齢が難しいようであれば地域だけでもある程度ふるいにかけた方がいいと思います。皆さんいかががでしょうか。異論はないようですので、抽出方法については先ほどのように考えてください。 他に対象方法についてご意見はありますか。</p>
<p>小林委員</p>	<p>アンケートの回収率はどれくらいありますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>三田市の高齢者保健福祉計画介護保険事業計画を作成した際のアンケート回収率は70%でしたが、これは対象が高齢者なので回収率が良かったと思われれます。三田市市民意識調査は50%弱くらいなので、今回も50%くらいではないかと考えています。</p>
<p>足立座長</p>	<p>それでは次にアンケートの内容について質問やご意見に移りますが、その前に今日欠席されている馬場委員からの文章での意見を紹介させていただき、その後に皆さんからのご意見をいただきたいと思います。 代読します。 「アンケートを見させていただきました。当職の意見は次のとおりです。 前回の懇話会では、トラブル、刑事事件に発展するケースについての発言が複数ありました。また、市のスタンスについて〔人まかせな感じがする。〕とのご意見もありました。いずれの意見もアンケートには全く反映されていないのが気になりました。 市の方からとりあげていた若年性認知症についての記載もありません（問14を除く）。高齢者への虐待、成年後見制度の利用（いわゆる権利擁護）についての記載も全くありません。 問14に社会福祉協議会の権利擁護・成年後見支援センターが選択肢にあがっていないことにも違和感があります。弁護士会は相談窓口の候補にはならないのでしょうか。認知症についての相談は医学的な内容に限られたものではないと考えます。紛争や財産管理も切実な相談内容ではありませんか。 認知症になった方の親族等（扶養者）の関係者が必要と考える市からの（関係者への）支援内容については聞かないのですか。 会には参加できませんが、上記内容を当職の意見として、皆様にお伝えください。」 この内容につきまして事務局から回答はありますか。</p>

事務局	<p>第 1 回目の意見が反映されていないという点につきましては、冒頭説明もさせていただきましたが、前回の会議からアンケートへのつながりを、前回の会議でしっかりとお伝えできていなかったことが反省点です。この部分につきましては、既存の様々な支援や今後新たに必要なこと、行政や事業所、支援者や市民がどのような役割分担で行っていくかについては今後第 3 回目以降にアンケートの結果を受けて皆さんにご意見を頂きながら取り組む予定です。成年後見制度の利用については、問 1 1 の回答選択肢に入れた方が良ければ皆さんのご意見を伺って、必要であれば追加します。高齢者虐待の件につきましては、認知症があるとリスクが高まるが、虐待へ発展しない為に問 1 1 の回答の選択肢にあるように取り組みをしていく必要があるため、まずはこちらの取組内容について市民の方がどのように思っているかという部分を確認したいと思っています。その為今回は虐待の部分まで踏み込んだ内容にはしていません。問 1 4 の相談窓口に権利擁護成年後見支援センターと弁護士会が必要ではなかという意見については、認知症に関する相談窓口として様々な相談を総合的に受けることができる窓口を想定して選択肢に入れています。アンケートは市民意見を伺うものではありませんが、アンケートを見ていただくことで市民への周知啓発の機会にもなります。窓口の選択肢を見られた時に、認知症の相談をする窓口を知る機会にもなります。権利擁護成年後見支援センターと県の弁護士会の相談窓口は認知症相談を受けてから必要な方をより専門の機関へつなぐ際の専門機関ではないかと考えています。しかし馬場委員からは県の弁護士会の相談窓口は、どのような相談でも受けることができ、そこから専門の機関へ繋ぐことも可能と聞いていますので、選択肢に加えたいと考えています。権利擁護成年後見支援センターはアンケートの選択肢に掲載可能か確認できれば加えてもいいかと考えています。市の支援内容は聞かないのかについては、そこも踏まえて問 1 1 の選択肢の中に市としてすべきことが含まれていますので、問 1 1 で聞いていると考えています。</p>
足立座長	<p>今の件を踏まえましてアンケート内容に関してのご意見をお願いします。</p>
山西委員	<p>問 1 ～ 3 の回答属性に家族構成、独居かどうかや、同居であれば誰と同居しているか。また趣味や日常の楽しみを入れてはどうでしょうか。これは高齢者で日々の楽しみが周りの方と集まったりおしゃべりをする事なのか、テレビを見る事なのか、どのような傾向の方が多いか知ることが出来ると思います。</p> <p>次に問 4 ですが、ほとんどの方が認知症という言葉は知っていて、症状はもの忘れです。そうなるという言葉も症状も知っているになります。そうなる質問の本意ではなくなります。認知症の頻度やどれくらいの方がかかるものか、若年性認知症や MCI (軽度認知機能障害) という言葉を知っていますかというような、少し踏み込んだ質問の方がいいと思います。そうでないと、誤ったデータが出来上がってしまうと思います。</p> <p>問 6 の選択肢にぜひ「さんだ認知症あんしんガイドブック」を入れてください。</p> <p>問 8 ～ 1 3 の認知症の暮らしについてです。前回会議で認知症の方が家族にいたことが恥ずかしいという意見がありましたので、認知症の人が偏見を持たれる傾向があると思いま</p>

	<p>すか、という質問はどうでしょうか。あなたや家族が認知症になった時、そのことを近所の人に伝えますかという質問にして、例えば選択肢には、伝えて協力をお願いしたい・伝えるが特に協力はお願いしない・あえて伝える必要性を感じない・知られたくないので伝えたくない等がいいと思います。質問の形式が3人称で他人事のように見え、自分のこととして考えにくいと思いますので、3人称ではなく1人称で考えて欲しいです。一般的な話として質問するのではなく、項目によっては「あなたやあなたの家族が」の聞き方が望ましいのではないかと思います。</p> <p>問11、12ですが、あなたや家族が認知症になった時、どのような事に不安を感じますか、あなたや家族が認知症になった時、自宅で暮らしていくためにはどのような事が必要になると思われますかという聞き方にすれば、聞いている内容は同じでも我が事として考えられるのではないかと思います。相談先や制度のことに関してですが、さんだ認知症あんしんガイドブックの存在を前回まで知らなかったの、ガイドブックを知っているかどうか、啓発冊子がどのような場所（例えば普段よく行く診療所や銀行、薬局等）にあると手取りやすいか、そのような質問があってもいいかと思います。三田市特有のこととして、三田市はどのような認知症施策に重点を置くべきだと思いますかという質問で、選択肢としては正しい知識を広める啓発活動・早期発見のための仕組みづくり・支援するボランティアの養成・認知症の人の社会参加の支援、というの聞いてはどうでしょうか。</p> <p>問16では「知らなかったが今後受講したい」の選択肢が無いので、養成講座を知っているか、その次の質問として受講したいか、の2つに分けた方が分かりやすいと思います。</p>
足立座長	<p>3人称が多すぎるというのは同感です。自分や家族が認知症になるという不安をどれくらいの方が思っているか、年齢層でも違ってくると思うが、施策を考える上で重要な質問だと思うが、そのような質問がない。深刻な内容になってしまうが、必要な質問ではないかと考えます。山西委員からの意見を検討していただけたらと思います。</p> <p>重なっても結構ですので、他の方がいいでしょうか。</p>
北村委員	<p>三田市には何千人かの認知症の方がおられます。家族を入れるとその2倍3倍は当事者として三田市におられることとなります。無作為抽出ということは当事者の方へアンケートが届くこととなります。その方たちに向けて、「あなたやあなたの家族が認知症になった場合について」という項目を設けてほしい。当事者や家族がどのように思っているかを拾える項目を作ってほしい。当事者や家族は言いたい事がたくさんあると思いますので、アンケートの最後に自由記載欄として、認知症についておもうことがあれば自由にご記入くださいというような項目を設けていただきたいです。</p>
足立座長	<p>認知症サポーター養成講座という記載だけで、説明が無くても講座の内容等が三田市民であれば分かるのか。</p>
寺坂委員	<p>オレンジリングを付けておられる方が認知症サポーター養成講座を受講し、認知症に関し</p>

	<p>て理解があるという証明になります。この制度は三田市だけではなく、全国共通のもので、三田市の場合は市からの委託により三田市地域包括支援センターで受付登録を行っています。三田市総人口に占めるサポーターの割合は約9%で兵庫県全体の割合が9%ちょっととなっており平均的な数字です。サポーター養成講座の受講者は9%おられますが、現状その方たちが何か活動されている訳ではないので、その点が課題です。普及啓発としては社協や市のHPへの掲載やパンフレット等も作成し配布していますが、市全体での認知度はデータとしてはありませんので、アンケートで認知度が分かることで次への周知へ進めていくことができると考えています。</p>
岩崎委員	<p>認知症サポーター養成の内容を注釈で書くことで、知らない方が見た時に啓発の機会にもなると思います。SOSメール配信のことが突然問12に出てきますが、アンケートをよく読んでいくと問15に記載があり後で分かるが、カッコ書きにして詳細は問15にありますと記載すると分かりやすいと思いました。問15についてもまずは知っているか知らないかを聞き、受信登録したいかどうかを聞く方がいいと思います。問11・12はたくさん項目がありますが、医療・保険・福祉部門ではよく分かる内容ですが、一般市民がこの選択肢から選ぶのは非常に難しい。思った以上に難しい内容なので16歳以上の学生が回答できない可能性がある。知っていて当たり前という質問だと答えにくいので、一般の市民が答えやすい内容に、質問内容の整理や工夫が必要だと思います。</p>
足立座長	<p>アンケートを使って知らない人に情報を発信するというのであれば、丁寧な説明を注記することで答えやすくなり、情報発信にもなると思います。問11の選択肢の整理は必要だと思しますので、検討をお願いします。</p>
田辺委員	<p>問14の相談先に関して、私どものグループホームにも色々な相談が入ります。相談先として機関の敷居が高いのでグループホームへ多々相談が入ります。そしてグループホームは次年度から伴走型支援拠点として地域において早期に課題を発見し重度化防止策委を入り口として相談機能の確保といった継続的に相談に関わっていくことがスタートします。少し聞きたいことがあるのでということで、グループホームへ相談の電話がよくかかってきます。</p>
北村委員	<p>問11・12ですが、選択肢を3つ選ぶのは難しいと思います。3つ選ぶのには何か理由があるのか。自分ならもう少し選びたいので、この選択数の枠を広げて欲しいと思いました。</p>
足立座長	<p>選択数3つには何か根拠がありますか。</p>
事務局	<p>5か3の選択数で考えていました。3以内ということでひとつでも可能ですが、多く選びたいということでしたら5つまでに選択数を変えることも可能です。今回選択肢を沢山拳</p>

	<p>げたのは、知識がないと出来ることが思いつかないので、例示を複数あげること自分だったら何が出来るかを考えてほしいというのがこの問11・12の考えになります。</p>
山西委員	<p>問11の内容は全て必要なことですね。①の選択肢の回答が多いと施策にどのように影響があるのか。③の選択肢が多い時と違いがあるか。</p>
事務局	<p>物事に取り組むときにまずは意識があるかどうかひとつ、意識があってもきっかけがあるかどうかひとつ、きっかけがあって取り組み始めたが、そのあと継続できるかどうか等のいくつかの段階を踏んで取り組みを続けていくのだと思います。どの地点におられるかを知りたいのと、できそうなことは何かを知ることその取り組みを優先的に行うことでより効果的に進めやすいので、その辺りを知るために項目を考えています。</p>
山西委員	<p>問11が一番多かった選択項目で市の施策が変わるということですか。</p>
事務局	<p>どれも必要なことですが、全てを一度に推進するのは難しいので、優先順位や重要度を考える時の材料とする為の項目です。</p>
山西委員	<p>問11の内容はどの順番であっても結局は全てしないといけないと思います。アンケートの結果によってしなくてもよいというのはダメだと思います。全てすることなので、この質問があるかどうかです。質問によって変えるのではなく、どれから始めるのかということであれば、例えば認知症になった時にどのようなお手伝いをしてほしいですか、どういところで不安を感じるか、を聞いた方が答えやすいのではないかと思います。例えば介護する家族であれば金銭面が気になる方・家族との思い出がなくなることがしんどいと思う方・周りの方への迷惑を感じる方などがおられると思いますので、そこが見るべきポイントだと思いますがいかがでしょうか。</p>
事務局	<p>当事者の方に聞く部分と自分や家族がそうなった時に聞く部分とを別で設ける必要があると、皆様のご意見を聞いて思っています。</p>
舟川委員	<p>問11は興味がなければ読まないと思います。逆に問12は具体的なので答えやすいと思います。山西委員も言われたように問11の内容は全て大切なことなので、いっそのこと質問項目から外して、それよりも個々の方がどういう手助けができるか、どういうヘルプをしてほしいか具体的に聞いた方が情報としては生きてくるのではないかと思います。</p>
岩崎委員	<p>問14の認知症の相談先は専門の所へいかないといけないのでしょうか。身近な保健センターや保健所も加えてもいいのでは。認知症相談センターではなく、包括支援センターの方が身近に感じる。困った時に身近なところで相談できる感覚を持ってほしいので、身近な名称を先に出してもら方がいいのではないかと思います。</p>

事務局	<p>問14の①は地域包括支援センター又は包括支援センターでかっこの中を認知症相談センターに入れ替えます。田辺委員からのご意見にもありましたが、新たに健康福祉事務所(保健所)とグループホームを含めた介護事業所を相談先として追加しても大丈夫でしょうか。(異議なし)</p>
寺坂委員	<p>相談先のところで、認知症の相談先を知っていますという設問で、はい・いいえの選択肢でもいいのかと思います。当事者の方がどれくらい相談先の知識を持っておられるのか、また知っておられなければ相談先の周知にもなると思います。三田市内の認知症カフェや地域のつどいの場から相談先へつながることもありますので、地域の場も相談先として加えていただくことも必要だと思います。</p>
福田委員	<p>家族が認知症と思うけれど病院へ行きたがらないのでどうすればいいか、というような相談が民生委員に入ります。その時に包括支援センターを紹介したり、一緒に相談に行くこともあります。まずはきっかけをつくるところで、支援をしている。一昨日3か月振りにカフェをしたが、声を掛けた方全員が参加されました。話を聞いて欲しかったと言って、介護者同士が輪になって話をされていました。今回カフェを再開してショックだったことは、認知症が進んでおられる方がおられました。消毒用のティッシュを飲み込もうとされ、毎日介護されているご主人に私たちは何ができるのだろうかと思うと辛かったです。私たちは固定した場所がなく、市民センターを毎月抽選で取って場所を転々として運営しています。固定した場所で出来れば有難いのですが。そのような状況の中で、これから参加者が増えるとボランティアだけでは支えきれなくなると思います。そのような場もあることをどこかに記載してほしいです。</p>
舟川委員	<p>犯罪に巻き込まれた場合や加害者になった場合、防ぐためにはどのようにすればいいかをアンケートで生の声を聞きたいです。市民の方からのよいアイデアがあれば施策に反映できればと思います。例えば窃盗、交通事故、交通妨害を防ぐにはどのようにすればいいか、市民の方からの建設的な意見が出るのではないかと思います。</p>
北村委員	<p>カフェの話がありましたが、アンケートは一般市民の方対象ですが、認知症本人や家族にヒアリングする場もスケジュールの中で設けてほしいと思います。</p>
事務局	<p>今後そのような機会をスケジュールに組み入れるようにしたいと思います。</p>
足立座長	<p>今日の意見を事務局でまとめて訂正し、この後はアンケートの実施ですか。</p>
事務局	<p>頂いたご意見を踏まえて修正し、発送は4月中旬を予定していますので、それまでに修正したものを郵送かファクスかメールで一度皆さんに見ていただくようにします。</p>

足立座長	<p>多くの有意義な意見がでましたので、是非もう一度目を通していただく機会を持っていただきたいと思います。</p> <p>本日の審議はこれをもちまして終了いたします。</p>
事務局	<p>3 その他</p> <p>次回の日程調整</p> <p>第3回目は6月下旬を予定。6月24日、25日、28日、29日、30日の午後で調整し、後日文書にて案内します。</p> <p>年度が代わり異動等で委員継続が難しい場合は、連絡をお願いします。</p> <p>(閉会)</p>